

## 2015 年度春季大会の告示

### I. 大会の案内

1. 期 日  
2015 年 5 月 21 日 (木) ~24 日 (日)  
午前：口頭，ポスター，ジュニアセッション  
午後：シンポジウム  
第 4 日 (5 月 24 日)  
午前：口頭，ポスター，専門分科会  
午後：口頭，専門分科会
2. 会 場  
つくば国際会議場 (エポカルつくば)  
〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3  
<http://www.epochal.or.jp/>
3. 研究発表  
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程  
大会は以下の日程で行われる予定です。  
第 1 日 (5 月 21 日)  
午前：口頭，ポスター，専門分科会  
午後：口頭，専門分科会  
第 2 日 (5 月 22 日)  
午前：口頭，ポスター  
午後：総会，受賞記念講演，懇親会  
第 3 日 (5 月 23 日)
5. シンポジウム  
大会第 3 日 (5 月 23 日) の午後開催予定です。テーマは「地球温暖化の停滞と加速」です。
6. 懇親会  
大会第 2 日 (5 月 22 日) の夕刻に、大会会場にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2015 年 1 月 6 日 (火) 開設予定】  
本大会では、大会ウェブサイト、2015 年 1 月 8 日 (火) より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<http://www.metsoc.jp/>) をご参照下さい。

### II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法  
「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。  
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。  
なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせて頂きますのでご注意ください。
- 1.1 オンラインによる申込  
・締切：2015 年 2 月 3 日 (火) 15 時 (日本時間)
- ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います (前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい)。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。
- ・個人情報と ID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。 申込締切後、プログラム編成を

支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つの ID で、講演者の異なる 2 件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。

- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(2月3日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

## 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2015年1月27日(火)(消印有効)  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
  - ① 大会予稿原稿(電子メールの場合は PDF 形式)
  - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡先(住所・電話番号・E-mail アドレス)、講演題目、主・副キーワード、参加種別(講演者 A/講演者

B)、懇親会(参加/不参加)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)

③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項参照)

④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に掲載)

[http://www.metsoc.jp/E/msj\\_copyright.pdf](http://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf)

送付先(電子メールの場合):

[kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp](mailto:kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp)

(件名に「講演申込 2015s」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合):

〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。

—口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

—「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

①「2015年度春季大会参加申込」と明記

②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)

③大会参加種別(講演者 A または講演者 B)

④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

—「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

—払込料金は本人負担をお願いします。

## 1.3 講演のキャンセルについて

・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。

・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会([kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp](mailto:kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp))までご相談下さい。

## 2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

## 2.1 オンラインによる申込

2015年4月7日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

## 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2015年3月31日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。
  - －口座番号は「00130-3-5958」,
  - 加入者名は「日本気象学会」です。
  - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ①「2015年度春季大会参加申込」と明記
    - ②大会参加種別（聴講者）
    - ③大会参加費金額
    - ④懇親会費金額
    - ⑤合計金額
  - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
  - －払込料金は本人負担でお願いします。

## 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

## 3. 参加費，懇親会費

### 3.1 大会参加費

- ・大会参加費（食事代等は含まれません，消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	－
講演者 B	5,000 円	－
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- ・講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

### 3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

### 3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

## Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

### 1. 原稿サイズ・枚数

1件あたり A4 判 1 枚とします。

## 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

## 3. 印刷

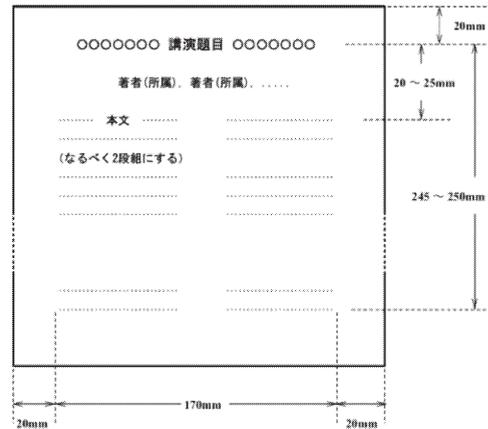
原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

## 4. 配置 (付図参照)

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に \*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20~25mm として下さい。本文は原則として 2 段組 (左半分→右半分) にして下さい。

## 5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (公社) 日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

## IV. 研究発表要領

### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表 (専門分科会を含む) とポスター発表の 2 種類があります。

### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行

います。

### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

### 5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日 (5 月 21 日 (木)) 及び大会第 4 日 (5 月 24 日 (日)) に開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンビーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ (オンライン申込は 2 月 3 日 (火)、郵送申込は 1 月 27 日 (火)) です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コン

ピーナーが大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。

- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

## 6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦210 cm×横90 cmとします。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

## 7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
  - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、

必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。

- －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

## 8. その他

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

## V. 専門分科会のテーマと趣旨

2015年度春季大会では下記の通り、10件の専門分科会が開かれます。

### 1. 「中層大気研究の最前線」

**趣旨：**新たな測器による観測、高解像度モデルやCCM-Val・CMIP5モデル実験、新理論の構築、等により、この数年間で中層大気に関する新たな知見が数多く得られている。CMIP5で成層圏まで含むモデルの割合が格段に増した事や、気象庁全球数値予報モデルが中間圏界面まで含むようになった事にも象徴されるように、中層大気は対流圏と

結合し、数日～100年規模スケールの気候変動にとって必要不可欠である。また海洋や熱圏との相互作用の実態も明らかになりつつあり、分野横断的な研究が求められている。今回はこれまでJpGUで開催してきた中層大気全般を扱うセッションを、気象学会に移して開催する。中層大気研究の最新成果を集約するとともに今後の展望について、気象学に関わる広範な分野の研究者と議論したい。なお「ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」の内容に焦点を当てた専門分科会は別途開催する。

コンビナー：河谷芳雄（独立行政法人海洋研究開発機構）、西井和晃（東京大学先端科学技術研究センター）、坂崎貴俊（京大大学生存圏研究所）、佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）

## 2. 「ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」

**趣旨：**成層圏ブリューワー・ドブソン循環（BDC）の発見は1950年代に遡るが、近年の気候研究においてその重要性が再認識されている。非常にゆっくりとしたBDCを直接観測することは困難であるため、その詳細な構造については不明な部分が多い。BDCは、自然変動だけでなく、温室効果気体の増加に伴い長期的に変動している可能性も指摘されている。BDCの形成・変動要因を説明するために、理論的・数値モデル研究も進められているが、各種大気波動の役割や、対流圏循環との相互作用過程など、様々な要素を考慮し包括的な理解を得ることが望まれている。本分科会では、BDCの形成・変動に関するこれまでの知見を集約し、今後の展望を議論することを目的とする。Age-of-air変動、数値モデル・客観解析における表現、3次元構造など、多角的な議論を期待する。中層大気の多様な現象を対象とする専門分科会「中層大気研究の最前線」と同時開催することで、中層大気研究に関する議論を深める。

コンビナー：宮崎和幸（海洋研究開発機構）、木下武也（情報通信研究機構）、江口菜穂（九州大学）、小寺邦彦（名古屋大学）、岩崎俊樹（東北大学）

## 3. 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

**趣旨：**気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて7年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ラピッドスキャンデータなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。また、今後運用予定の高機能静止衛星「ひまわり8号・9号」データなどのビッグデータの研究利用も期待されています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ラピッドスキャンデータなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

コンビナー：向川 均（京都大学防災研究所）、高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）、佐藤芳昭（気象庁予報部数値予報課）

## 4. 「次期静止気象衛星「ひまわり8号」がもたらす未来の気象学」

**趣旨：**2014年10月7日に種子島より打ち上げられた「ひまわり8号」は、2015年中に運用を開始するべく、現在準備中である。同衛星は、可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の5から16へと飛躍的に増え、水平解像度も現行の倍、観測頻度は全球で10分毎、特に日本付近では2.5分毎（ラピッド・スキャン観測）へと強化される。これらの機能強化により、気象業務の実利用として、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待される。また、気象学の発展の観点からも、地球観測衛星や極軌道気象衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や、気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている。同衛星については、2011年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後も、同衛星データの利用を想定した研究や技術開発が着実に進展している。衛星の実利用が目前に迫った本大会でも、同衛星についての最新の情報を提供するとともに、これまでの研究成果や今後の利用計画を俯瞰し、同衛星が果たすべき役割について幅広く議論したい。

コンビナー：別所康太郎（気象庁気象衛星センター）、石元裕史（気象研究所）、岡本幸三（気象研究所）、瀬古 弘（気象研究所）、中島 孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、眞木貴史（気象研究所）、三好建正（理化学研究所計算科学研究機構）

## 5. 「山岳域の気象・気候および環境への影響」

**趣旨：**山岳域は、空間スケールや広域循環場などに応じ、気象に対して様々な影響を及ぼす。近年は、地形に依存した気象災害もしばしば指摘されている。本セッションは、2010年春の大会で企画した同名のセッションを継承し、山岳域に関わる大気陸面相互作用から防災対策まで幅広い分野の研究展望を横断的に議論する事を目的とする。山岳域を中心とした近年の気象観測・解析・シミュレーション研究のほか、生態系や雪氷現象に関連する内容も含む。

**コンビーナー：**上野健一（筑波大学生命環境系）、玉川一郎（岐阜大学流域圏科学研究センター）、筆保弘徳（横浜国立大学教育人間科学部）、川瀬宏明（気象研究所環境・応用気象研究部）

## 6. 「大気と海洋のデータレスキューの現状とその利活用」

**趣旨：**近年の気候の大きな変化を科学的により正確に理解し、大きな変化が危惧される将来気候の予測の確度を高めるために、大気や海洋の長期変化を捉えることのできる観測データや再解析データが望まれる。過去数百年間に渡って膨大な紙資料の観測データが利用されずに図書館などに眠っている。このような資料を発掘し収集するデータレスキューが国際的に現在精力的に進められている。さらに、観測データが長期に亘って充実している地上の気圧や温度観測を用いて20世紀を対象とした大気再解析も行われてきている。これらのテーマについて国内外の研究を紹介・レビューするとともに、歴史的データを活用する今後の気候研究についてのアイデアを見いだすことを本分科会の目的とする。

**コンビーナー：**財城真寿美（成蹊大）、久保田尚之（海洋研究開発機構）、石井正好（気象研究所）

## 7. 「高解像度全球シミュレーションが拓く新しい気候・気象研究」

**趣旨：**全球モデルの高解像度化は、この10年間の計算技術の進歩（地球シミュレータ、京コンピュータ等）により飛躍的に進みました。現在では、全球非静力学モデルNICAMを用いた水平解像度14

kmの気候シミュレーションが実現し、その解析結果が出始めています。ポスト「京」時代が間近となり各方面の議論が進められていく中で、今一度サイエンスとしての新しい課題を具体的に議論し、その先の展開を眺望する場を設けたいと思います。募集講演では、現在までの高解像度全球シミュレーションから「何が得られ」、今後の高解像度全球シミュレーションによって「更に何を追究したいか」、そのために全球モデルをどう発展させるべきか、等をご発表頂きます。大気・海洋・陸面・化学など多様な分野から、若手を含む多くの皆様の自由闊達なご議論を期待します。

**コンビーナー：**那須野智江（海洋研究開発機構）、梶川義幸（理化学研究所）、釜江陽一（国立環境研究所）、小玉知央（海洋研究開発機構）、佐藤友徳（北海道大学）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、富田智彦（熊本大学）、水田 亮（気象研究所）

## 8. 「地球環境変動観測ミッション GCOMによる全球規模の大気・生態系・雪氷・水循環変動観測計画」

**趣旨：**宇宙航空研究開発機構は2012年5月に水循環変動観測衛星GCOM-Wを打上げ、2012年7月より高性能マイクロ波放射計AMSR2による全球の水循環変動の観測を開始した。また、2016年度には多波長光学放射計SGLIを搭載した気候変動観測衛星GCOM-Cの打上げを計画している。SGLIは、放射収支や炭素循環等のメカニズム解明を目的として、可視から熱赤外までの放射輝度を全球・高頻度に観測し、植生、大気、海面、雪氷に関する各種物理量を抽出する予定であり、現在、物理量解析のためのアルゴリズム開発や精度検証のための地上観測計画の準備が進められている。本分科会では、GCOM-Wのこれまでの観測成果およびGCOM-Cのアルゴリズム開発状況や打上げ後の検証計画について報告するとともに、気象・気候変動分野におけるGCOMデータの利用可能性について議論する。

**コンビーナー：**中島 孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学）、沖 大幹（東京大学）、奈佐原顕郎（筑波大学）、虎谷充浩（東海大学）、青木輝夫（気象研究所）、村上 浩、可知美佐子、堀 雅裕（JAXA）

## 9. 「気象レーダー60年の歩みと将来展望」

**趣旨**：1954年に大阪管区気象台と気象研究所において気象レーダーの運用が開始されてから60年余が経過した。わが国の気象レーダーは人間でいえばいわゆる「還暦」を迎えたことになる。本分科会ではこの60年間のわが国におけるレーダーに関する気象学と技術の歩みを振り返るとともに、将来の展望と課題について議論する。

わが国の現業気象レーダーはアナログ方式による台風の監視に始まり、デジタル方式への進化、地形除去機能の付加、データの全国合成などを経て、その成果は精度と革新性において世界に誇るべき「解析雨量」に集約されている。近年ではこれを応用した「土壌雨量指数」などが防災分野で重要視されている。またドップラー機能による空港周辺の低層ウィンドシアア監視や各地の竜巻監視が業務化されている。並行して河川管理業務においても気象レーダーが広く利用されるとともに、近年の都市水害の監視を主目的としたXバンド二重偏波レーダーの展開は、わが国における気象レーダーの歴史に大きな節目を与えた。

一方、わが国の気象学研究の発展においても気象レーダーの果たしてきた役割は大きい。特に梅雨期豪雨、北陸豪雪を始めとする各地に大雨・大雪・強風をもたらす対流システム、さらにはアジア・オセアニア各地における対流システムのメカニズム解明において、わが国の大学・研究機関が運用する気象レーダーが大きく貢献してきた。近年では世界をリードする超高速・超高解像気象レーダーの開発がめざましい。

本専門分科会では、わが国における1)気象レーダーの歴史、2)気象レーダーの業務利用、3)気象レ

ーダーの研究利用、4)最新の気象レーダー技術の将来展望、の4のセクションにおいて招待公演及び一般講演を行う。

**コンビーナー**：石原正仁（京都大学学際融合教育研究推進センター）、藤吉康志（北海道大学低温科学研究所）、立平良三（元気象庁長官）

## 10. 「気候変動が東アジア域気象に及ぼす影響の理解に向けて：マルチ気候モデルデータ解析」

**趣旨**：地球温暖化は地表平均気温を上昇させるだけでなく、大気や海洋の大循環の変化などを通じて、温帯低気圧の経路、台風、豪雨や干ばつの頻度や強度など、様々な大気現象の様相を変化させる可能性があります。特に、アジアに住む私たちにとっては、雨の降り方の変化は、生活の安全や食料生産に直接影響する重要な問題です。

2013年発表されたIPCC第5次評価報告書のために、第5次結合モデル相互比較計画（CMIP5）という国際的な研究計画のもと、世界から50以上の気候モデルによる実験結果が集められました。

本専門分科会では、CMIP5データ他のマルチ気候モデルデータと最新の観測データを利用した、東アジア域の気候や身近な気象についてモデル再現性と将来変化予測に関する講演を募集します。特に、全球規模の気候変動に伴い東アジア域の四季における様々な現象がどのような仕組みで変化するかについて議論の基礎となる研究発表を歓迎します。

**コンビーナー**：高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）、尾瀬智昭（気象庁気象研究所）、中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の条件を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンビーナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

## Ⅶ. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2015s@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。なお、会場によっては利用料負担をお願いする

場合があります。

申込期限：2015年2月3日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ  
2. 代表者の連絡先  
3. 希望日時・開催場所  
4. 予想参加人数  
5. 希望する支援内容

## Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会中の保育施設利用料の一部補助を行います。保育施設として、下記2件を紹介いたします。

### 1. チャイルド・クラブ・パンセ

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1-21-3

グランドパレス NS-1 102号・106号

TEL 029-861-1500 FAX 029-861-1700

<http://www.childclub.e-tsukuba.jp/index.htm>

### 2. キッズハウスつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1丁目 24-8

パルシャスつくば 1F 101号

TEL 0120-38-8373

<http://www.kids-house.jp/>

利用料金等は、各ホームページを確認下さい。

両施設は大会会場近傍にあり、関東鉄道バス「学園南循環」路線の「二の宮一丁目」バス停が利用可能ですが、便は余り良くありません。

上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等も含め、保育支援を希望される方は、2015年4月16日（木）までに下記担当者までご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：菅田誠治（国立環境研究所）

E-mail: sugatas@nies.go.jp

TEL: 029-850-2457

## Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

### 1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

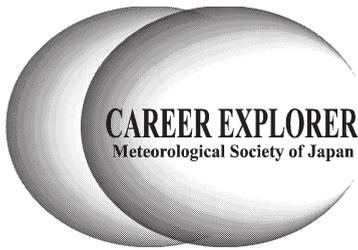
近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望

ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

### 2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取

得できます。



### 3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入し

てください。

2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

### 4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

## X. リクルートブースの設置について

日本気象学会は、大会会場にてリクルートブースを設置する予定です。これは、広く民間企業から適職に出会うための機会をご提供いただくことにより、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートする試みです。企

業の就職担当者の方々にご来場いただき、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供します。ブース訪問希望者の参加予約等の手続は不要です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。